

期 昭和五十九年一月十一日～二十一日  
於 図書館三階閲覧室（本館）

年中行事関係資料

年中行事とは、一般に、一年のうちで、一定の時期に慣例として行なわれる公事。もとは、宮中で行なわれるものをいったが、後には、民間の行事・祭礼に対しても言われるようになった。今回は、年頭にあたり、年中行事関係の書物を展示してみた。

○ 年中行事絵巻 住吉模本 複製版

(別置)

住吉如慶・住吉具慶模写  
卷子本十七巻 二十三種 東京 古典芸術刊行会 昭和三十四年刊 原本 住吉家伝来 田中親美所蔵  
平安時代の年中行事といえは、宮中の年中行事が主であったが、朝廷の衰微と共に、その朝儀もすたれていった。しかし、朝儀として、その盛儀を後世に残すものに、年中行事絵巻がある。これは、幾度かの戦乱火災等によって焼失したが、幸いに模写本が伝えられ、当時のありさまを生々しくあらわしている。田中親美氏所蔵のその模本を二分の一に縮写複製したものが、本書である。  
第一巻は、正月はじめの朝観行幸で、天皇が、仙洞御所に父の先帝をお訪ねして、年賀の御拝をなさるところである。公卿の出迎えのさまを、構図の中心に、町中の庶民の姿も、いきいきと描かれている。

○ 尾陽年中行事略絵鈔 春の部

(常磐松文庫)

猿猴菴撰  
写本一冊 美濃判 絵入 奥書なし 「江戸後期写」 合綴 「多度祭礼之記」  
尾張・熱田地方の年中行事を精細な彩色描写であらわし、解説を加えたもので、合綴の「多度祭礼之記」も、多度大権現祭礼の由来を同じく絵入で説明したものである。  
所掲は、尾張の琵琶島川の河原で行なわれる左義長の図。左義長は、正月十五日、十八日に門松や書初、しめ飾りなどを焼く行事。どんと焼。

○ 年中行事断簡

(常磐松文庫)

写本一帖 列帖装 榊形本 九行書き 読曲付 「室町期写」  
はじめの何丁かが欠けている。紫宸殿の賢聖図御障子および清涼殿の年中行事御障子文について記載されている。

○ 年中行事故実考

(常磐松文庫)

写本一冊(四巻) 美濃判 絵入 奥書なし  
宮中の年中行事および民間の年中行事をあわせて略説し、それぞれの出典をあげて、その由来を説明している。  
所掲は、ぶりぶり毬杖ぎうちょうの図で、子供が手に持って八角形の毬杖をふって、球を打つ。一種の魔除けが、遊びになっっている。

○ 年中行事大成

(常磐松文庫)

版本六冊(四巻) 美濃判 文化三年(一八〇六) 大坂 吉文字屋市左衛門「ほか」刊 さし絵 速水春曉斎  
正月から六月までの宮中・社寺・民間の年中行事を網羅し、また季節の風物なども、解説している。